

# 特集

# どうなる？これからの葛巻高校



生き生きと高校生活を送る生徒たち

かつて、町内中学生の卒業後の進路は、就職や家業を継ぐことが大多数で、高校に進学できる生徒はごく一部でした。

しかし、葛巻高校創立後、多くの中学生が高校に進学できるようになり、同校は地元唯一の高等教育の場として発展しながら現在に至っています。

このように、町民にとってかけがえない葛巻高校が、現在存続の危機に直面しています。

## 進む「葛高ばなれ」 2学級維持難しく

現在、県教育委員会では、少子化に対応するため、県立高校の統廃合を進めています。

40人（1学級分）の欠員が出た場合や、2年連続で21人以上の欠員が出た場合は、1年後に学級減とし、2年後は統合または分校にするというものです。

近年の葛巻高校の入学数は50人前後で、定員の80人を大きく下回っています。現在は中高一貫教育の成果が認められ、統廃合を免れています。今後毎年60人の入学を確保しなければ、現状での存続はできません。

入学数が減少している最大の原因は少子化です。平成23年の町内中学校卒業予定者は47人で、全生徒が葛巻高校に進学しても、2学級を維持するのは難しい状況です。もう一つの理由は、いわゆる「高ばなれ」です。

平成14年度は、町内中学校卒業生の75%が葛巻高校に進学していましたが、平成18年度は62%まで落ち込んでいます。

農工商業などの特定分野を志す生徒が、実業校や専門科がある高校へ進学するのは当然ですが、普通科志望の生徒も、葛巻高校以外の高校へ進学する生徒が増えています。

また、この傾向は、生徒だけではなく保護者や町民の間にも見受けられ、「葛巻高校より盛岡の高校の方が良い」という考え方が定着しつつあります。

確かに、一般入試選抜により、高校の学力水準に差があるのは事実です。しかし、学歴だけではなく、人間性や社会性がより問われる現代において、「葛巻高校より盛岡の高校の方が良い」という考え方は、かつて生徒の進路の選択肢を制限することになりかねません。このような風潮に、議会は危機感を覚えています。

## 進学断念の可能性 町の発展にも影響

中高貫教育推進委員会のアンケート調査では、平成18年度に葛巻高校に入学した生徒の半数が、その理由を「地元で経済的に楽だから」としています。

このように、義務教育ではない高校へ進むため、生徒本人が、保護者の経済的な負担を考えて、高校を選択している現状があります。

葛巻高校がなくなると、中学生は町外の高校へ進学せざるを得ません。通学費用や下宿代など、保護者は相当の経済的負担を強いられます。その結果、高校進学を断念せざるを得ない生徒が出てくる可能性もあります。

また、町の活性化にも影響を及ぼします。町内の中学校卒業生のほとんどが町外へ出ることになれば、人口は減少し、過疎化が



調理実習では真剣そのもの

## 高の特色と魅力 希望進路達成100%

ここで、葛巻高校の特色と魅力に改めて目を向けてみたいと思います。

葛巻高校の最大の特色は、町内中学校と連携した「中高貫教育」です。

町内の中学生は、一般入試をせず葛巻高校に入学し、受験勉強に追われず6年間一貫した教育で学力を身につけます。

授業やクラブ活動で中高生が



郷土芸能の保存にも一役を担います

## 過去3年間の葛巻高校卒業生の主な進路先

### 【進学】

- 岩手大学
- 富士大学
- 青森公立大学
- 仙台大学
- 東北学院大学
- 秋田経済法科大学
- 北海道北見工業大学
- 静岡県立大学短期大学部
- 東北女子短期大学
- 岩手県立大学
- 福島大学
- 東京農業大学
- 八戸工業大学
- 東京女子体育大学
- 国際医療福祉大学
- 盛岡大学短期大学部

ほか

### 【就職】

- 自衛隊二等陸士
- ホテル大観
- (株)ヒラトヤ
- 白石食品加工(株)
- ホテル愛真館
- 南花巻観光(有)
- イワテプライダルセンター
- 守山乳業(株)
- 葛巻町畜産開発公社

ほか

